

## 1. 略歴

1985年3月	静岡県静岡聖光学院高等学校卒業
1985年4月	東京大学教養学部文科三類入学
1989年3月	同 文学部英語英米文学科専修課程卒業
1989年4月	東京大学大学院人文科学研究科（英語英米文学専攻）入学
1992年3月	同 修士課程修了・修士（文学）
1993年10月	連合王国ケンブリッジ大学大学院博士課程入学（英米文学専攻）
1997年5月	同博士課程修了 博士号取得（文学） タイトル：‘Wallace Stevens and the Aesthetic of Boredom’
1992年4月	東京大学文学部英語英米文学科助手
1993年4月	帝京大学文学部助手
1997年4月	帝京大学文学部専任講師
2001年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授
2007年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

英米文学

### b 研究課題

英語圏の詩や小説の研究を中心とする。個々の作品の緻密な解釈と、作品を作品たらしめる力学の解明に向けた努力を研究の中心としつつ、同時に、「なぜ詩でなければならないか?」「なぜ小説なのか?」という素朴な疑問との取り組みをも課題とする。詩や小説を自足的なジャンルとみなすのではなく、「問答形式」「ポライトネス」「言語運用能力」「事務能力」「胃弱」といった周辺テーマとからめた研究を行う。

### c 概要と自己評価

#### 概要

2020年度から2021年度にかけては、言語運用能力が文学作品のキャラクター造型や語りのスタンスの設定にどのような役割を果たしているかを研究しつつ、「胃弱」「事務能力」といった要因にも注目した。

#### 自己評価

19年までの活動で中心的な位置をしめていたポライトネス研究は、まだ一般的にも広がりを見せているとは言えないので、今後も協同研究のような形でネットワークを広げ、より広範にわかる対象をとりあげながら理論の洗練をめざしたい。言語運用能力がどのように表彰されてきたかといった視点を立てた研究ははかかなり具体的な成果を生み出している。

### d 主要業績

#### (1) 著書

- 共著、阿部公彦、沼野充義、納富信留、大西克也、安藤宏、『ことばの危機 大学入試改革・教育政策を問う』、集英社 240pp、2020.6
- 単著、阿部公彦、『理想のリスニング — 「人間的モヤモヤ」を聞きとる英語の世界』、東京大学出版会、2020.10
- 共著、平野啓一郎、阿部公彦、ロバート キャンベル、鴻巣友季子、田中慎弥、中島京子、飯田橋文学会、『名場面で味わう日本文学60選』、徳間書店、2021.3
- 辞書・辞典・事典、竹内理矢・山本洋平編著、『深まりゆくアメリカ文学 源流と展開』、ミネルヴァ書房、2021.4
- 共著、読売新聞文化部「本よみうり堂」編、『キリンが小説を読んだら サバンナからはじめる現代文学60』、書肆侃侃房、2021.4
- 単著、阿部公彦、『英文学教授が教えたがる名作の英語』、文藝春秋、2021.4
- 石井千湖、『名著のツボ』、文藝春秋、2021.8
- 共著、松岡亮二（編）、『教育論の新常識』、中公新書ラクレ、2021.9
- 共著、都甲幸治（編）、『ノーベル文学賞のすべて』、立東舎、2021.9

共著、巽孝之監修、下河辺美知子・越智博美・後藤和彦・原田範行編集、『脱領域・脱構築・脱半球——二一世紀人文学のために』、小島遊書房、2021.10

単著、阿部公彦、『病んだ言葉 癒やす言葉 生きる言葉』、青土社、2021.11

編著、野崎敏・阿部公彦編著、『新訂 世界文学への招待』、放送大学教育振興会、2022.3

## (2) 論文

阿部公彦、『森鷗外と事務能力 —『渋江抽斎』の言葉と物』、『すばる』、2020年4月号、pp.140-150、2020.3

阿部公彦、『日本語「深」読みのススメ——学習指導要領の「形」を考える』、『kotoba』(集英社)、2021年春号、pp.140-147、2021.3

阿部公彦、『日本語「深」読みのススメ——告げ口、引用、注釈』、『kotoba』(集英社)、2022年春号、pp.182-189、2021.3

阿部公彦、『日本語「深」読みのススメ——料理本と善意』、『kotoba』(集英社)、2022年夏号、pp.162-169、2021.6

阿部公彦、『叫びとしての言語』、『Media, English and Communication -- A Journal of the Japan Association for Media English Studies』、No11(通巻第60号)、pp.1-6、2021.8

阿部公彦、『日本語「深」読みのススメ——料理本と善意』、『kotoba』(集英社)、2022年秋号、pp.164-171、2021.9

阿部公彦、『日本語「深」読みのススメ——断片とその先の世界』、『kotoba』(集英社)、2022年冬号、pp.166-173、2021.12

阿部公彦、『リベラルアーツと語学教育と自由間接話法』、石井洋二郎編『リベラルアーツと外国語』(水声社)、pp.283、pp.111-123、2022.2

## (3) 書評

東山彰良他、『「猿を焼く」他』、『群像』、『文学界』、『新潮』、『群像』、2020年2月号、561-576頁、2020.1

西村賢太、『瓦礫の死角』、講談社、『群像』、2020年2月号、548-549頁、2020.1

大江健三郎、『懐かしい年への手紙』、講談社、『読売新聞』、2020年1月19日朝刊、2020.1

村上龍他、『「MISSING 失われているもの」他』、『新潮』、『文学界』、白水社、『共同通信』(各地方紙)、2020.1

紅野謙介、『国語教育 混迷する改革』、ちくま新書、『ちくま』、2020年2月号、6-7頁、2020.2

岡本学他、『「アウア・エイジ」他』、『群像』、『文藝』、『新潮』、『群像』、2020年3月号、496-511頁、2020.2

崔実(チェシル)他、『Pray human』、『群像』、『新潮』、『新潮』、『すばる』、『共同通信』(各地方紙)、2020.2

辻原登、『「社どもえ」』、中央公論新社、『文学界』、2020年4月号、322-323頁、2020.3

崔実(チェシル)他、『「Pray Human」他』、『群像』、『新潮』、『群像』、2020年4月号、544-560頁、2020.3

辻原登、『冬の旅』、集英社文庫、『読売新聞』、2020年3月15日朝刊、9頁、2020.3

吉田修一、『怒り』、新潮文庫、『読売新聞』、2020年3月29日朝刊、2020.3

江田孝臣、『「エミリー・ディキンソンを理詰めで読む——新たな詩人像をもとめて」』、春風社、『アメリカ文学研究』、第56号(2019)、76-81頁、2020.3

原成吉、『アメリカ現代詩入門——エズラ・パウンドからボブ・ディランまで』、勉誠出版、『現代詩手帖』、2020年5月号、166-167頁、2020.4

エリック・マコーマック、柴田元幸訳、『雲』、東京創元社、『群像』、2020年6月号、88頁、2020.5

J.M.クッツェー、『恥辱』、早川書房、『春風新聞』、2020年春夏号、8頁、2020.5

佐伯一麦、『空にみづうみ』、中央公論新社、『読売新聞』、2020年5月31日朝刊、2020.5

浅田次郎、『終わらざる夏』(上・中・下)、集英社文庫、『読売新聞』、2020年7月26日朝刊、11頁、2020.6

岡本学、『「アウア・エイジ(Our Age)」』、講談社、『文学界』、2020年9月号、330-331頁、2020.8

吉本ばなな、『どんぐり姉妹』、新潮文庫、『読売新聞』、2020年9月27日朝刊、11頁、2020.9

J・M・クッツェー／鴻巣友季子訳、『恥辱』、早川epi文庫、『読売新聞』、2020年10月25日朝刊、11頁、2020.10

都甲幸治、『引き裂かれた世界の文学案内 境界から響く声たち』、大修館書店、『図書新聞』、2020年11月7日号、4頁、2020.11

金原ひとみ、『fishy』、朝日新聞出版、『新潮』、2020年12月号、318-319頁、2020.11

伊藤亜紗、『手の倫理』、講談社、『クロワッサン』、2021年1月10日号、111頁、2020.12

戌井昭人、『さのよいよい』、新潮社、『すばる』、2021年3月号、306-307頁、2021.2

イーヴリン・ウォー、小野寺健訳、『回想のブライズヘッド』、岩波文庫、『読売新聞』、2021年2月14日朝刊、11頁、2021.2

アンナ・バーンズ、榎木玲子訳、『ミルクマン』、河出書房新社、『日本経済新聞』、2021年2月20日朝刊、28頁、2021.2

鴻巣友季子、『翻訳教室 はじめの一步』、ちくま文庫、『群像』、5月号、596-597頁、2021.4

カズオ・イシグロ、土屋政雄訳、『クララとお日さま』、早川書房、『東京新聞』、2021年4月17日朝刊、11頁、2021.4

レイモンド・カーヴァー、『大聖堂』、中央公論新社、『読売新聞』、2021年6月6日、11頁、2021.6

内田樹、『街場の芸術論』、青幻社、『週刊読書人』、2021年8月27日号、6頁、2021.8  
颯木あやこ、『名づけ得ぬ馬』、思潮社、『現代詩手帖』、9月号、71頁、2021.9  
佐久間文子、『ツボちゃんの話——夫・坪内祐三』、新潮社、『中央公論』、2021年11月号、240-241頁、2021.10  
三浦雅士、『スタジオジブリの想像力 地平線とは何か』、講談社、『群像』、2021年12月号、604-605頁、2021.11  
刀祢館正明、『英語が出来ません』、KADOKAWA、『カドブン (ウェブマガジン)』、2022年1月31日、2022.1  
佐伯一麦、『アスベストス』、文藝春秋、『文學界』、2022年3月号、304-305頁、2022.2  
シェイマス・ヒーニー、『全詩集』、国文社、『読売新聞』、2022年3月13日朝刊、2022.3

#### (4) 解説

阿部公彦、『疾走する、にぎやかなヴィクトリア朝』、映画『どん底作家の人生に幸あれ！』パンフレット、15-16頁、2021.1  
阿部公彦、『解説』、鳥飼玖美子『通訳者たちの見た戦後史 月面着陸から大学入試まで』、389-398頁、2021.6  
阿部公彦、『解説』、竹内康浩『謎ときサリンジャー 「自殺」したのは誰なのか』、259-269頁、2021.8  
阿部公彦、『解説』、志賀直哉『日曜日・蜻蛉 生きものと子どもの小品集』、236-243頁、2021.12

#### (5) 学会発表

国内、阿部公彦、『ポスト「4技能」時代の英語：〈お悩み解決型〉学習に必要な力を身につけよう』、フェリス女学院大学・英語英米文学科・学生会フェリス女学院大学（緑園都市キャンパス）、2020.1.10  
国内、阿部公彦、『ディケンズと事務能力』（シンポジウム「今に生きるディケンズ」）、ディケンズ・フェローシップ日本支部 2020年度秋季総会—ディケンズ没後150年記念大会、オンライン、2020.10.3  
国内、阿部公彦、『「叫び」としての言語』、日本メディア英語学会第10回年次大会、オンライン、2020.10.25  
国内、阿部公彦、『大津起夫先生、渡部良典先生のご発表をうけて』、日本テスト学会第19回大会・公開シンポジウム「大学入試の「英語」はどこに向かうのか」、2021.9.25  
国内、阿部公彦、『「4技能均等」の限界とその先』、第39回日本英語学会大会・特別公開シンポジウム（日本英文学会との共催）「今、英語教育を考える—英語にかかわる研究の視点から」、オンライン、2021.11.13

#### (6) マスコミ

「識者に聞く：大学入試の英語民間試験導入は「延期」ではなく中止を」、『ニッポンドットコム』、2020.1.28  
「4技能「均等育成」は幻想」、『中日新聞』、2020.1.31  
「名著のツボ：ディケンズ『大いなる遺産』」、『週刊文春』、2020.2.19  
「英検面接問題 持ち出す」、『読売新聞 大阪版朝刊』、2020.2.21  
「共通テスト作問委員の関与が疑われる例題集 「実用的な文章」に言及」、『アエラ』、2020.2.22  
「名著のツボ：ディケンズ『荒涼館』」、『週刊文春』、2020.2.26  
「大学英語入試、センター試験廃止の弊害は明白 新共通テストの奇妙さを考える【上】」「英語入試「4技能」に惑わされず、力をつける道は 新共通テストの奇妙な出題方針を考える【下】」、『ウェブ論座』、2020.3.14  
「都が2018年に江東区に開設「英語村」 評判上々も利用少なく」、『東京新聞朝刊』、2020.3.21  
「「すばらしい英語学習」の落とし穴 —大学入試混乱と「4技能の迷走」が教えてくれること」、『現代思想』2020年4月号、2020.3.27  
「大学入試・英語民間試験大混乱 —その三つの要因」、『全国学者・研究者後援会ニュース』、2020.3.28  
「沼野さんとへその話」、『れにくさ』、2020.3.28  
「入試政策と「言葉の貧しさ」」、『科学』2020年4月号、2020.3.28  
「日本人はなぜ長い間、英語を話せないのか」、『朝日新聞 EduA』、2020.5.6  
「オンライン授業について」、『朝日新聞 EduA vol.26』、2020.5.24  
「英文学にデコピン12 「J.M.クツェー『恥辱』の回復」」、『春風新聞』、2020.5.29  
「英語と大学入試の問題点」、『朝日新聞 EduA vol.28』、2020.6.28  
「書物倦逸 読書とからだ」、『究 (ミネルヴァ通信)』、2020.8.1  
「詩が聞こえてくるということ」、『延河』(中国語)2020年9月号、2020.9  
「アエラ」、2020.9.25  
「NHK」、2020.10.5  
「毎日新聞」、夕刊 p.2、2020.11.10  
「週刊文春」、2020.12.10  
「日本経済新聞」、2020.12.12

「週刊文春」、2020.12.17  
「アエラ」、2021.1.4  
「言葉は技能なのか ～『嘘の効用』から考える」、東京大学文学部 HP「学問と社会の現在とこれからを考える」Vol.4、  
2021.1.11  
「国策は学問を育てられるのか——「親子関係」の行き着くところ」（「自由」の危機 第2回）、『集英社新書プラス』、  
2021.2.1  
「朝日新聞デジタル」、2021.2.3  
「読売新聞」、2021.2.3  
「毎日新聞」、2021.2.12  
「春風新聞」、2021年春夏号 vol.27、2021.4.2  
「本の話（文藝春秋ウェブサイト）」、2021.5.12  
「本の話（文藝春秋ウェブサイト）」、2021.5.13  
「読売新聞」、2021.5.30  
「朝日新聞 EduA」、2021.6.7  
「しんぶん赤旗」、2021.6.12  
「ポストセブン」、2021.6.13  
「読売新聞」、2021.6.15  
「Times Higher Education」、2021.7.9  
「Asahi Weekly」、2021.7.11  
「週刊読書人」、2021.9.3  
「New York Times」、2021.9.29  
「週刊新潮」、2021.9.30  
「読売新聞」、朝刊、2021.10.10  
「東大新聞オンライン」、2021.11.23  
「読売新聞」、夕刊、2022.2.12  
「群像」、2022年4月号、2022.3.7  
「文藝春秋」、2022年4月号、2022.3.10

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等

国内、阿部公彦、『ことばの危機』刊行記念、「本の場所」企画、「本の場所」（無料オンライン配信あり）、2020.9.5  
国内、阿部公彦、「英語ができるとはどういうことか?」、東京理科大学・教養教育センター主催セミナー、東京理科大学（Zoom オンライン）、2020.9.12  
国内、阿部公彦、「報告」、緊急トーク企画「大学はどこへ向かうのか」、オンライン、2020.10.18  
国内、阿部公彦、「報告」、「大学はどこへ向かうのかII」、オンライン、2021.1.10  
国内、阿部公彦、「これからの言語教育 —混乱をへてあらためて考えたいこと」、春季ゼミナール、市ヶ谷グランドヒル 翡翠の間（ハイブリッド）、2021.3.16  
国内、阿部公彦、日本文藝家協会企画「言葉を知る。言葉を学ぶ。言葉を教える 鼎談・第1回大学入学共通テストを振り返る」、日本文藝家協会事務局、2021.3.30  
国内、阿部公彦、オンライン読書イベント「現代VS文芸」、オンライン、2021.5.20 国内、阿部公彦、「日本語話者の英語と日本語 これからの言語教育」、日本学術会議 言語・文学委員会 文化の邂逅と言語分科会、オンライン、2021.7.11  
国内、阿部公彦、「「耳」からはじめる英語の体幹トレーニング」、2021 河合塾文化講演シリーズ、河合塾大阪校、2021.8.22  
国内、阿部公彦、「〈理想のリスニング〉とこれからの英語教育」、Festina Lente 講演会、オンライン、2021.9.5  
国内、阿部公彦、「『英語的身体』の鍛え方」、五月祭 公開講座、オンライン、2021.9.19  
国内、阿部公彦、日本文藝家協会企画「言葉を知る。言葉を学ぶ。言葉を教える 鼎談・第2回大学入学共通テストを振り返る」、日本文藝家協会事務局、2022.3.30

#### (2) 学会

国内、一般財団法人日本英文学会、理事、副会長、2021.5～

国内、一般財団法人日本英文学会関東支部、理事、2021.5～  
国内、日本アメリカ学会、編集委員（英文号）、～2022.3  
国内、日本 T.S.エリオット協会、委員、2021.4～2023.3  
国内、ポエティカ、編集委員、2020.4～2021.3